連続講座
第１～７回

講座（第１回～第７回）

■受講対象：「近くの山の木を使った家づくり」や
「緑あふれる居住環境」に関心のある生活者・技術者

■受講料：（資料代含む）：25,000 円
受講料は初回受講時に受付にて徴収いたします。

■下記の申込用紙に記入の上、FAX 又は郵便にてお申し込みください。
もしくは、E-mail に申込用紙の内容を記入し、送信して下さい。

■欠席された場合は，資料のみ，後日送付させていただきます。

一般
公開講座
第５回のみ

一般公開講座（第５回のみ）

■受講料（資料代）
一般 1000 円、学生 500 円　当日受付にてお支払い下さい。

■事前の申し込みは不要です。

会場

会　場：名古屋工業大学（第６回以外）

■名古屋工業大学は、JR 中央線・地下鉄 鶴舞駅 下車 徒歩約 8 分です。

■会場の詳細は申込者に別途連絡します。

■第 6 回のフィールドワークの集合時間・場所等詳細は別途連絡します。

■講義終了時刻は多少前後することがあります。

募集

募集期間：4 月 1 日から受付開始（お早めに申し込み下さい）

■ **定員 70 名**（申込先着順）

■ 申込み先・問い合わせ：　（担当：藤岡）
E-mail: fujioka@nitech.ac.jp　FAX：052-735-5182

■ 運営事務局：〒 466-8555 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学内　木の家スクール名古屋 事務局 藤岡

受講
お申込み

緑の列島木の家スクール名古屋 2010　受講申込み書

受講の申込みをされる方は各項目にご記入いただき、
コピーをとり、ＦＡＸ又は郵便にて送信してください。
もしくは同様の内容を E-mail にて送信してください。

FAX：052-735-5182
木の家スクール名古屋事務局 藤岡

■ 氏　名（ふりがな）　（　　）

■ 住　所　〒

■ 携帯電話番号　（　　）　FAX 番号　（　　）

■ E-mail

■ 勤務先・所属

■ 職 種　建築関係（設計士・工務店・職人・（　　））・建築以外（　　）※○をつける

■ 木の家スクール名古屋を何でお知りになりましたか？　該当すうるものに○をつけてください。
・雑誌（　　）　・新聞（　　）　・スクールからのメール案内　・インターネット
・チラシ（どこで　　）　・その他（　　）

個人情報は適切な管理を行い、講義等に関する連絡以外には使用しません。

緑の列島
木の家スクール 名古屋
2010

「木の家」のつくり方と暮らし、森と木の文化について学ぶ 連続講座

主催：「緑の列島 木の家スクール 名古屋」実行委員会
共催：NPO 法人 緑の列島ネットワーク，　名古屋工業大学　木の文化研究フォーラム
後援：岐阜県林政部，名古屋市教育委員会，豊田市，日本建築士会連合会
職人がつくる木の家ネット，愛知産業大学造形学部建築学科

「緑の列島 木の家スクール」は 2003 年にはじまり、この度８年目の連続講座を開催する運びとなりました。

今後、様々な環境問題を克服してゆくにあたり、国産材・流域材の活用に加え、都市の緑、家庭の緑を通じて環境にどう貢献できるかについても考えてゆく必要があります。講座では、「木の家」における住まい方や生き方、農山村と繋がるライフスタイル、かつての日本にあった「木の文化」の深さなど、環境と健康と福祉を考えたこれからの「すまい」についての講座を、スペシャリストをお招きして開催します。

「近くの山の木を使った家づくり」や「緑あふれる居住環境」に関心のある生活者・技術者の皆様にぜひ受講いただきたいと考えております。

近くの山の木で家をつくる運動
緑の列島ネットワーク

緑の列島 木の家スクール 名古屋 2010

講義内容・講師紹介

講義時間 13:30 ～ 17:00（第 6 回以外）

5/8 土曜日 第 1 回

伝統的構法による木造建物の地震被害と耐震性能

北原昭男　熊本県立大学　教授

鳥取県西部地震の震源近傍には伝統的構法による木造住宅が多く存在したが倒壊建物は皆無であった。本講義では、これらの被害調査の結果をもとに、建物被害が小さかった要因についてまとめる。また、静的実験の結果から明らかになった伝統的構法による軸組の構造特性や耐震性能、伝統構法をこれからにつなげる取組などについても触れる。

鹿島建設技術研究所 研究員、京都大学防災研究所助手、鳥取環境大学環境デザイン学科助教授、同 教授などを経て、2006 年より熊本県立大学 環境共生学部居住環境学科 教授。木質構造を中心とする構造物の耐震性能評価、都市地震防災に関する研究などを行う。

設計しながら木を刻む

綾部孝司　有限会社綾部工務店　取締役

設計者が現場を知る必要、そして施工者が設計を知る必要どちらも大切な事です。木の家をもっと社会に認めてもらう為には、それぞれの職能を認め合いスムーズな連繋が必要なことは言うまでもありません。本講義では、伝統的構法の家づくりについて設計と施工を両立させながら現場を進める日常の様子をお話しします。法律面や実務面での課題も取り上げていく予定です。

1966 年生まれ　東洋大学工学部建築学科卒業後、建築企画設計会社、設計事務所にて住宅設計を行う。1996 年より家業の工務店にて、大工となる。伝統的な家づくりを、設計から施工まで一貫して行っている。「世界で一番やさしい建築図面 木造住宅編」など共著。

終了後懇親会を予定（費用別途）

6/19 土曜日 第 2 回

わかり易い木構造

山辺豊彦　山辺構造設計事務所　代表

一般の方、初心者の方にも理解を深めていただくことができるよう、模型などを使っての解説や、著書「世界で一番やさしい木構造（エクスナレッジ）」を用いての説明を行いたいと考えています。そのほか、伝統的構法に関する最近の取り組みと今後の動向、最近の法律改正にともない設計に求められる事項、木造の構造計画における注意点などをわかりやすく説明します。

1946 年生まれ。構造設計一級建築士。1978 年山辺構造設計事務所設立。東京地裁専門委員。東京建築賞、BELCA 賞など受賞。著書：「絵解き 住まいを守る耐震性入門 (風土社)」など

7/3 土曜日 第 3 回

自然素材の取り入れ方と、継承のしかた

大嶋信道　大嶋アトリエ代表、武蔵野美術大学講師

建主と一緒に、柱を山から伐り出した「ニラハウス」や「ツバキ城」、一本足のヒノキで茶室を空中に浮かせた「茶室・徹」など、藤森照信・東大教授と共同で設計した建物での、「自然素材をいかに現代建築に取り込むか」という試みにおける事例の紹介と、新築の建物や民家を再生するときに、古材や、古い建具、転用材などを継承して使っていくことの、「技術」や「美学」について、お話しします。

1960 年鳥取県生まれ。武蔵野美術大学建築学科卒業。建設会社勤務を経て、1990 ～ 94 年 東京大学藤森研究室。1991 年大嶋アトリエ設立。「倉吉の町屋」で鳥取県景観大賞。著書「建築虎の穴見聞録（新建築社）」「藤森流自然素材のつかいかた（共著）（彰国社）」

名古屋城宝暦大修理から学ぶ江戸時代の建築技術

麓 和善　名古屋工業大学大学院　教授

天下の名城名古屋城も、創建 140 年後には、天守台石垣がはらみ、天守本体も堀側に大きく傾いていた。そこで、宝暦 2 年 (1752) から 4 年間をかけて、本体を残したまま石垣の積み直しを行なうという、前代未聞の大工事が行われた。当時の設計図・仕様書をもとに、その大工事の全容を解説し、そこから高度に発達した江戸時代の建築技術を学ぶ。

専門は、日本建築史・文化財保存修復。名古屋城・安土城・鳥取城・金沢城・犬山城・甲府城・織田信長居館 (岐阜)・長浜城 (沼津)・高山陣屋・名勝諸戸氏庭園・重文東山植物園温室・重文旧美歎水源地水道施設等、全国の文化財修復に委員として参画。

8/7 土曜日 第 4 回

あかりをもっと楽しみませんか？ - 人の心とあかりの関係 -

中尾晋也　大光電機 (株) 経営戦略室 部長

地球が誕生して 45 億年と言われています。そして人類誕生から 500 万年。その間地球に降り注いでいる光は、太陽の光。私達はこの太陽の光の影響をずっと受けてきました。人工光源の心理的、生理的影響や効果は太陽の光と綿密な関係を持っています。あかり、光の事を原点に返って考えましょう。

1953 年 生まれ。高校、大学で工業デザインを学ぶ。大光電機入社以来、公共施設、商業施設、ホテルなどの照明設計、サイン計画を担当する。企業ＰＲ誌の企画編集、文化イベントの企画なども手がける。京都造形芸術大学非常勤講師、ライティングデザインスクール学長。

環境との対話と居場所のかたち

益子義弘　建築家、東京芸術大学名誉教授

住まいの空間の骨格を考える上で大切な周辺環境との関わりや人たちの居場所のありようについて、これまでの設計経験やその中で思い描いてきたことを実例を通してお話しします。

1940 年生まれ　1964 年 東京芸術大学建築科卒業。大学での後輩の指導とともに世界の民家調査や建築の諸設計に取り組む。JIA 25 年賞、日本建築学会東北建築賞入賞など。

9/18 土曜日 第 5 回

一般公開講座

「森の聞き書き甲子園」の高校生が見た「不思議な村」

澁澤寿一　ＮＰＯ法人　共存の森ネットワーク　副理事長

「森の聞き書き甲子園」は 100 人の高校生と「森の名人」が出会う物語。山に入って山菜やキノコを採り、木を伐って家を建て、木や草で布を織る名人たち。全国から参加した高校生は、聞き書きを通して、名人の持つ知恵や技に触れ、その生き方を学びます。名人が高校生に語った言葉。それは、人間と自然が共生してきた知恵や心の集積です。森と人間がお互いに支えあう暮らしは、はるか先人から受け継がれ、私たちの足元にあるものです。そんな村の暮らしをお話しします。

1952 年生まれ。農学博士。循環型都市「ハウステンボス」取締役などを経て現職。森づくり、地域づくり、人づくりの活動を実践。トヨタ自動車新環境プログラム「豊森」実行委員長

木の文化の国に生きること－歴史的理解から未来へ－

藤岡伸子　名古屋工業大学大学院　教授

日本人はその長い歴史の中で「木造」にこだわり続け、森でも町でも豊かな「木の文化」を育みつつ美しい生活空間を作ってきました。しかし、明治以降の社会構造の変化は、木の文化を壊滅させ、私たちは文化的迷子となりました。今再び木に注目が集まる一方、木の文化についての教養は深まっていません。新しい時代への指針として、「木の文化」の本質を再確認してみたいと思います。

東京大学大学院総合文化研究科 修了。専門は比較文化論・美学。研究テーマは、17 世紀に始まる近代文化の進展の中で失われてきた自然、共同体、そして手仕事の価値論。特に、柳宗悦と民藝運動、ウィリアム・モリスのアーツアンドクラフツ運動など。これからの時代を切り開く鍵として、その今日的な価値や意義を探求する。

10/2 土曜日 第 6 回

人工林の管理いろいろ - 管理放棄するとどうなっちゃうの？ -

北岡明彦　豊田市森林課

人工林を現場にて、いろいろな角度から紹介します。例えば、森林の働きから見た人工林、生物多様性から見た人工林、人工林に必要な管理など。
その中で、今、日本中の人工林で大きな問題となっている間伐手遅れ林について、集中的に説明します。適正に間伐しないと、人工林はどうなるか？
間伐にはどんな方法があるか？などを、森の中で一緒に考えてみましょう。

1954 生まれ。長年、愛知県森林課に勤務。2005 年に新設された豊田市森林課に出向、その後移籍。日本自然保護協会の自然観察指導員として、各種観察会のエキスパートとして活躍。フィールド活動を重視し、自然のすばらしさを見出させ参加者を感動させている。著書：中部の湿原（東海財団）、日本どんぐり大図鑑（偕成社）など

フィールドワーク　愛知県豊田市　名古屋工大に集合してバス移動　（11:00 ～ 19:00）日程、集合場所などは決定次第、受講者に連絡します。

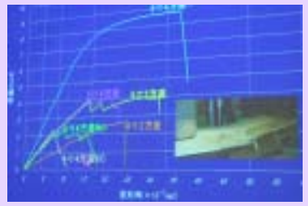
11/6 土曜日 第 7 回

木造住宅の構造デザイン

山辺豊彦　山辺構造設計事務所　代表

木構造の実務的な課題について、著書「ヤマベの木構造」を使いながら受講者とともに考えてゆきたいと思います。そのほか、受講者が設計した建物を対象に、構造的見地からの解説を行います。

1946 年生まれ。構造設計一級建築士。1978 年山辺構造設計事務所設立。東京地裁専門委員。東京建築賞、BELCA 賞など受賞。著書：「渡り腰構法の住宅のつくり方（建築技術）」など



終了後懇親会を予定（費用別途）